

(様式1)

No. 2601

## 業務実績書

中期計画の項目 (I 7 (1))	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査。研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
----------------------	--

【事業名称】	無形文化遺産に関する助言 (I 7 (1))
--------	------------------------

【事業概要】	地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・修復・整備・活用などの事業に対し助言を行う。
--------	---

【担当部課】	無形文化遺産部	【事業責任者】	無形文化遺産部長 宮田繁幸
--------	---------	---------	---------------

【スタッフ】	鎌倉恵子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟（以上、無形文化遺産部）
--------	--------------------------------

【年度実績概要】	<p>平成 19 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 文部科学省（教育映画等審査に関して）に対する助言 8 件</li> <li>(2) 文化庁芸術文化課地域文化振興室に対する助言（文化芸術による創造のまち支援事業に関して） 26 件</li> <li>(3) 文化庁伝統文化課に対する助言（国際民俗芸能フェスティバルに関して） 2 件</li> <li>(4) 千葉県教育委員会に対する助言 2 件</li> <li>(5) 茨城県立歴史館に対する助言 2 件</li> <li>(6) 岩手県立博物館に対する助言 1 件</li> <li>(7) 静岡県教育委員会に対する助言 1 件</li> <li>(8) 福山市立鞆の浦歴史民俗資料館に対する助言 1 件</li> <li>(9) 今治市村上水軍博物館に対する助言 3 件</li> <li>(10) 下関市立調布博物館に対する助言 1 件</li> <li>(11) 日本芸術文化振興会に対する助言（劇場賞選考、運営計画、文化デジタルライブラリー関連） 3 件</li> <li>(12) 日本芸術文化振興基金に対する助言（助成事業に関して） 3 件</li> <li>(13) (財) 伝統文化活性化国民協会に対する助言（伝統文化データベース、ふるさと文化再興事業、伝統文化こども教室関連事業に関して） 10 件</li> <li>(14) 全国民俗芸能大会に関する助言 6 件</li> <li>(15) 全国青年大会郷土芸能の部運営委員会での助言 2 件</li> <li>(16) 日本民俗学会に対する助言 2 件</li> <li>(17) 園田学園近松研究所に対する助言 1 件</li> </ol>
【実績値】	1 助言件数 74 件

【備考】	
------	--

(様式2)

## 自己点検評価調書

No. 2601

## 1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

## 2. 定量的評価

観点	助言件数					
判定	A					
備考 平成13年度～平成17年度年度平均助言数 64件						

## 3. 実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、依頼を受けて行うものであり、あらかじめ個々の助言について予定することは出来ないが、本年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼が前中期計画時の平均値以上寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものとする。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

## 4. 当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年通りの助言依頼に順調に対応できたと考える。

(様式1)

No. 2602

## 業務実績書

中期計画の項目 (I7 (1))	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
---------------------	--

【事業名称】	文化財の修復及び整備に関する調査・助言（I7 (1)）
--------	-----------------------------

【事業概要】	地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業を援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。
--------	--

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター 副センター長 川野邊 渉
【スタッフ】	中山 俊介、北野 信彦、加藤 雅人、早川 典子、森井 順之（以上、保存修復科学センター）		

【年度実績概要】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団法人日本航空協会評議委員会（川野邊 渉）</li> <li>・有限責任中間法人国宝修理装飾師連盟資格試験委員会（川野邊 渉）</li> <li>・重要文化財富岡製糸場の修復方針に関する指導助言（中山 俊介）</li> <li>・重要文化財旧手宮鉄道施設(小樽市)の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、中山 俊介）</li> <li>・御料車及び1号機関車の搬出入方法に関する指導助言（川野邊 渉、中山 俊介）</li> <li>・所沢航空発祥記念館所蔵91式戦闘機胴体の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、中山 俊介）</li> <li>・第5福竜丸エンジンの保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、中山 俊介）</li> <li>・日本橋の修復に関する指導助言（川野邊 渉、中山 俊介）</li> <li>・福島市指定有形文化財「板倉神社所蔵資料ならびに什物」の修復に関する指導助言（川野邊 渉）</li> <li>・国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、中山 俊介、北野 信彦、加藤 雅人、早川 典子、森井 順之）</li> <li>・特別史跡キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、北野 信彦、加藤 雅人、早川 典子、森井 順之）</li> <li>・長崎県上五島町江袋教会の焼損部材の再使用に関する指導助言（川野邊 渉、中山 俊介）</li> <li>・熊野磨崖仏(豊後高田市)の保存整備に関する指導助言（川野邊 渉、森井 順之）</li> <li>・大韓民国に所在する鉄道文化財の保存修復に関する指導助言（中山 俊介）</li> <li>・江戸東京博物館「銀座煉瓦街遺構」の保存修復に関する指導助言（朽津 信明、早川 典子、森井 順之）</li> <li>・重蔵神社（輪島市）所蔵本殿内陣の扉の保存修復に関する指導助言（森井 順之）</li> <li>・日光二社一寺の保存環境モニタリングに関する指導助言（森井 順之）</li> <li>・重要文化財0.5t及び3tスチームハンマーの修復後処置に関する指導助言（森井 順之）</li> <li>・京都市内出土の埋蔵文化財の保存処置及び各種分野に関する指導助言（北野 信彦）</li> <li>・日高遺構出土未炭化米の保存方法に関する指導助言（北野 信彦）</li> <li>・徳島大学構内遺跡出土漆器資料の材質・技法の調査に関する指導助言（北野 信彦）</li> <li>・松浦市鷹島海底遺跡出土資料の保存処置に関する指導助言（北野 信彦）</li> <li>・仙台北城跡・春日社古墳出土の漆製品の保存処置に関する指導助言（北野 信彦）</li> <li>・重要文化財三ツ塚古墳出土「大修羅」の定期点検に関する指導助言（北野 信彦）</li> <li>・重要文化財島田神社本殿の解体修理中の取り外し部材に塗装されたベンガラの調査に関する指導助言（北野 信彦）</li> <li>・近代化遺産の修理等に係る指針策定に関する調査研究会において指導助言（中山 俊介）</li> <li>・国宝白杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、早川 典子、森井 順之）</li> </ul>
【実績値】	指導助言実施件数 27件

【備考】	
------	--

(様式2)

## 自己点検評価調書

No. 2602

## 1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

## 2. 定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					
備考						

## 3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者の方々あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、私たちが、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることが出来た。

## 4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は、件数は27件と昨年よりも上回った。また、その内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちが新たな知見を得るように努力する。

（様式1）

No. 2603

## 業務実績書

中期計画の項目 (I 7(1))	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
---------------------	--

【事業名称】	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 (I 7(1))
--------	---

【事業概要】	地方公共団体等が行っている遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等について、依頼を受け専門委員会の委員になるなどして、必要な事項に関し援助・助言を行う。
--------	---

【担当部課】	奈良文化財研究所	【事業責任者】	所長 田辺征夫
【スタッフ】			

【年度実績概要】	<p>地方公共団体等が行っている文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業に対し、各分野において専門的・技術的な援助・助言を実績値のごとく多数行っている。そのうち史跡整備、建造物修理、発掘調査、出土文字資料調査について、いくつかの事例を上げて、実績報告とする。</p> <p>地方公共団体等がおこなう文化財建造物等の調査、修復、整備について、学術的、技術的側面からの具体的な援助・助言を現地等でおこなった。主なものには、調査関係として京都府近代和風建築総合調査、修復・整備関係として兵庫県史跡和田岬砲台、奈良市東大寺境内整備、奈良市特別史跡・特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園、奈良市名勝依水園庭園、京都市元離宮二条城建造物、名古屋市特別史跡名古屋城跡、奈良市史跡大安寺旧境内、奈良市国宝唐招提寺金堂、宮内庁正倉院正倉のほか、岩手県金ヶ崎町、長野県塩尻市の伝建群地区内整備などがある。このほか、奈良県橿原市文化財審議会、奈良市文化財保護審議会、奈良県立民俗博物館運営協議会などにおいて、専門的立場からの助言等をおこなった。</p> <p>地方公共団体等による遺跡の発掘調査における調査方法や検出した遺構の性格、建物遺構の構造的特徴についての援助・助言、遺跡や名勝などの保存管理や整備事業に係る調査、価値評価、実施内容、構想・計画の立案などの援助・助言をおこなった。主なものには、岩手県盛岡市史跡志波城跡、宮城県東松島市赤井遺跡、福島県いわき市史跡根岸官衙遺跡群、須賀川市史跡上人壇廃寺、茨城県水戸市台渡里廃寺跡・大串遺跡、石川県常陸国衙跡、群馬県伊勢崎市三軒屋遺跡、太田市天良七堂遺跡、埼玉県深谷市幡羅遺跡、東京都府中市武蔵国衙跡、長野県飯田市名勝天龍峽、佐久市西近津遺跡群、岐阜県関ヶ原町史跡関ヶ原古戦場、静岡県磐田市特別史跡遠江国分寺跡、三重県桑名市名勝諸戸氏庭園、明和町史跡齋宮跡、四日市市史跡久留倍遺跡、滋賀県大津市中路遺跡、京都府京都市方広寺旧境内、向日市史跡長岡宮跡、兵庫県朝来市史跡茶すり山古墳、上郡町史跡山陽道野磨駅家跡、奈良県奈良市特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園・名勝旧大乘院庭園・名勝月瀬梅林、天理市史跡赤土山古墳、鳥取県鳥取市史跡本廃寺跡、倉吉市史跡伯耆国衙跡発掘調査、米子市坂長遺跡、広島県府中市備後国府跡、愛媛県松山市史跡久米官衙遺跡群、徳島県徳島市名勝阿波国分寺庭園、福岡県大刀洗町史跡下高橋官衙遺跡、宮崎県西都市史跡日向国府跡・日向国分寺跡などがある。</p> <p>地方公共団体等が発掘調査を行った全国25の遺跡から出土した木簡・墨書土器、漆紙文書などの出土文字資料約300点について、その釈読・写真撮影などの調査・研究に関する援助・助言を行った。主なものには、奈良市平城京跡、兵庫県山野里宿遺跡、静岡県ケイセイ遺跡・鳥居松遺跡、滋賀県塩津港遺跡・六反田遺跡、秋田県弘田柵跡、新潟県延命寺遺跡、熊本県花岡木崎遺跡などがある。</p>				
【実績値】	<table> <tr> <td>地方公共団体等の委員就任件数</td> <td>99件</td> </tr> <tr> <td>援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）</td> <td>417件（委員会出席198件、審議会出席23件、指導50件、調査54件、講演40件、その他52件）</td> </tr> </table>	地方公共団体等の委員就任件数	99件	援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）	417件（委員会出席198件、審議会出席23件、指導50件、調査54件、講演40件、その他52件）
地方公共団体等の委員就任件数	99件				
援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）	417件（委員会出席198件、審議会出席23件、指導50件、調査54件、講演40件、その他52件）				
【備考】					

(様式2)

## 自己点検評価調書

No. 2603

## 1. 定性的評価

観点	継続性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			
備考 継続性：依頼機関への対応 適時性：実施業務に適時対応、社会的要請 発展性：的確な援助・助言による実施業務の順調な実現						

## 2. 定量的評価

観点	援助・助言実施件数					
判定	A					
備考						

## 3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等が行っている遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、援助・助言を的確に行うことができたので、Aと認めたものである。

## 4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・復原事業や、建造物の調査、修理事業について、各担当機関から専門的な援助・助言を求められ、これに対応している状況である。不動産文化財に関する総合的な研究所という奈文研に対する社会的要請に、今後も的確に対応していく必要がある。

(様式1)

No. 2604

## 業務実績書

中期計画の項目 (I 7 (1))	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの期間が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
----------------------	--

【事業名称】	地方公共団体が行う平城京城発掘調査への援助・助言 (I 7 (1))
--------	------------------------------------

【事業概要】	平城宮跡の隣接地域や平城京の寺院跡などの重点地区内において、近年小規模開発が進んでいる。この開発に対して宮および宮周辺における奈良時代を含む土地利用の実態把握と遺構深度などを明らかにする目的で発掘調査を実施した。
--------	--

【担当部課】	都城発掘調査部 平城地区	【事業責任者】	副部長 山崎信二
--------	--------------	---------	----------

【スタッフ】	小池伸彦、和田一之輔、城倉正祥、西口壽生、神野恵、森川実、加藤雅士、深澤芳樹、今井晃樹、林正憲、島田敏男、金井健、栗野隆、大林潤、渡辺晃宏、馬場基、山本崇、浅野啓介
--------	--

【年度実績概要】	平城宮に密接に関連する平城京城発掘調査への援助・助言は、総数 4 件あり、主に開発行為に対する事前発掘調査である。発掘の総面積は 194.5 m <sup>2</sup> 、調査期間は 2007 年 4 月 16 日～2007 年 11 月 13 日の間、延べ 73 日に及ぶ。				
次数	調査地	調査原因	面積	期間	概要
422 次	西大寺薬師金堂	住宅建設	94.5 m <sup>2</sup>	2007.4.16～6.15	礎石据付穴を 6 基検出し、西大寺薬師金堂建物規模が確定し、西大寺における建物配置の計画性を明確にした。
425 次	法華寺	倉庫建設	12 m <sup>2</sup>	2007.8.30～9.7	法華寺近世の東北隅部において、濠と塀の区画施設を検出。
427 次	平城宮馬寮北方	住宅建設	8 m <sup>2</sup>	2007.10.12～10.22	中世の土坑を 2 基検出。
428 次	平城京右京三条一坊	住宅建設	80 m <sup>2</sup>	2007.10.22～11.13	中近世の堤、洪水砂を検出。
【実績値】	論文等数 3 件 (論文①～③) 出土品 瓦磚など 372.66 kg、土器 11 箱、金属器・木器など 28 点 記録作成数 実測図 16 枚、写真 (4×5) 89 枚				

【備考】	①林正憲「422 次 西大寺薬師金堂」『奈良文化財研究所紀要 2008』(予定) ②栗野隆「427 次 平城宮馬寮北方」『奈良文化財研究所紀要 2008』(予定) ③和田一之輔「428 次 右京三条一坊九坪」『奈良文化財研究所紀要 2008』(予定)
------	---

(様式2)

## 自己点検評価調書

No. 2604

## 1. 定性的評価

観 点	継続性	適時性	正確性			
判 定	A	A	A			
備考 継続性：データ収集のため規模の大小にかかわらず発掘を継続する 適時性：開発に対応する迅速性 正確性：文化財行政に協力する事前調査						

## 2. 定量的評価

観 点	援助・助言実施件数					
判 定	A					
備考						

## 3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	緊急性を要する発掘調査に効率よく対応し、平城宮・京についての基礎資料を継続的に蓄積していることからAと判断した。

## 4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮・京の構造や変遷を検討するために有効な基礎的データを得た。

（様式1）

No. 2605

## 業務実績書

中期計画の項目 (I7(1))	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
--------------------	--

【事業名称】	地方公共団体が行う飛鳥藤原地区の発掘調査への援助・助言（I7(1)）
--------	------------------------------------

【事業概要】	奈良県高市郡明日香村から橿原市にかけての「飛鳥・藤原」地域は、我が国古代国家成立期の歴史的な舞台であり、6世紀末から8世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心地であった。この地域の地下には、現在も宮殿や豪族の居館、寺院や墳墓など様々な遺跡が眠っている。本研究は、地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言を通じて、埋蔵文化財保護行政に貢献するものである。また、こうした遺跡の発掘調査を通じて、古代国家の具体的な歴史像を復元すべく、学際的な調査研究を行い、その成果は、遺跡発掘調査説明会や報告書類、展示室などで広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。
--------	--

【担当部課】	都城発掘調査部 飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長 巽淳一郎
--------	----------------	---------	---------

【スタッフ】	松村恵司、村上 隆、豊島直博、廣瀬 覚、長谷川透、玉田芳英、小田裕樹、丹羽崇史、関広尚世、青木 敬、次山 淳、中川あや、高田貫太、石田由紀子、箱崎和久、黒坂貴裕、番 光、市 大樹、竹本 晃、井上直夫、岡田 愛
--------	--

【年度実績概要】	特別史跡藤原宮跡および飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は、総数12件あり、主に特別史跡等の現状変更に対する事前調査である。					
	次数	調査地	調査原因	面積	期間	概 要
	149-1	本薬師寺	畦畔改修	270 m <sup>2</sup>	2007.5.21～6.7	立会調査。石敷・版築面の確認。
	149-2	山田道	ポケットパーク建設	13 m <sup>2</sup>	2007.7.5	立会調査。遺構面に達せず。
	149-3	山田寺	電柱建替	2 m <sup>2</sup>	2007.7.11～12	立会調査。
	149-4	平吉遺跡北方	国営公園整備	202 m <sup>2</sup>	2007.9.3～9.21	発掘調査。飛鳥川氾濫原の確認。
	149-5	藤原京横大路	建物建設	260.7 m <sup>2</sup>	2007.9.11～10.30	発掘調査。横大路南側溝の確認。(①)
	149-6	藤原宮	藤原京ルネッサンス	5.76 m <sup>2</sup>	2007.9.5	立会調査。遺構面に達せず。
	149-7	藤原京右京八条二坊	埋設管付替	80.75 m <sup>2</sup>	2007.11.20～12.6	発掘調査。石組溝等を検出。(②)
	149-8	藤原宮	車留改修・埋設管付替	298.8 m <sup>2</sup>	2007.11.20～3.14	立会調査。
	149-9	山田道	水路等改修	119.35 m <sup>2</sup>	2008.1.25～3.11	発掘調査。旧流路を検出。(③)
	149-10	藤原宮	水路改修	240 m <sup>2</sup>	2008.1.30～2.21	発掘調査。掘立柱建物を検出。(④)
	149-11	藤原宮	遊歩道改修	266 m <sup>2</sup>	2008.3.4～6	立会調査。遺構面に達せず。
	149-12	藤原宮	多目的広場改修	709 m <sup>2</sup>	2008.3.25	立会調査。
【実績値】	論文等数5件（論文4件①②③④、その他1件⑤） 出土品 軒瓦・垂木先瓦20点、丸・平瓦コンテナ40箱、土器コンテナ19箱、金属製品2点、銭貨2点、石製品3点、加工木コンテナ（小）3箱、獣骨9袋、 記録作成数 実測図57枚、写真（4×5）49点					

【備考】	①番 光 「右京一条五坊の調査―第149-5次」『奈良文化財研究所紀要2008』2008.6 ②丹羽崇史 「右京八条二坊の調査―第149-7次」『奈良文化財研究所紀要2008』2008.6 ③青木 敬 「山田道の調査―第149-9次」『奈良文化財研究所紀要2008』2008.6 ④石田由紀子 「朝堂院東地区の調査―第149-10次」『奈良文化財研究所紀要2008』2008.6 ⑤都城発掘調査部 「飛鳥・藤原宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要2008』2008.6
------	--

(様式2)

## 自己点検評価調書

No. 2605

## 1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
備考 適時性：開発行為に対応する迅速性。地方公共団体の文化財行政に対する協力。 継続性：データ収集のため規模の大小にかかわらず調査を継続しておこなう。						

## 2. 定量的評価

観点	援助・助言件数					
判定	A					
備考						

## 3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年間12件の案件に対して、迅速かつ適切に対処し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して協力することができた。また、これらの調査を通して継続的に遺跡のデータを収集し蓄積をはかったことから、総合的にAと判断した。

## 4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

(様式1)

No. 2606

## 業務実績書

中期計画の項目 (I7 (2))	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。また、東京東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。
---------------------	---

【事業名称】	埋蔵文化財担当者研修 (I7 (2) ①)
--------	-----------------------

【事業概要】	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。 研修受講者のうち平均80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。
--------	---

【担当部課】	企画調整部、管理部業務課	【事業責任者】	企画調整部長 岡村道雄、業務課長 東博信
--------	--------------	---------	----------------------

【スタッフ】	小林謙一、今西康益、石田義則、井手真二 研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。
--------	--

【年度実績概要】	一般研修1課程、専門研修12課程の計13課程を実施し、延べ155名が受講した。 また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100%の者から『思う』の回答を得た。																																																																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施期日 (日数)</th> <th>定員</th> <th>受講者数</th> <th>満足度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般研修 遺物観察調査課程</td> <td>6月 4日～ 6月29日 (26日)</td> <td>16人</td> <td>6人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>専門研修 文化財写真Ⅰ(基礎)課程</td> <td>7月 9日～ 7月25日 (17日)</td> <td>10人</td> <td>6人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>文化財写真Ⅱ(応用)課程</td> <td>7月25日～ 8月 8日 (15日)</td> <td>10人</td> <td>6人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>古代・中近世瓦調査課程</td> <td>9月 6日～ 9月13日 ( 8日)</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>地方官衙遺跡調査課程</td> <td>10月 1日～10月 5日 ( 5日)</td> <td>12人</td> <td>14人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程</td> <td>10月16日～10月24日 ( 9日)</td> <td>10人</td> <td>8人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程</td> <td>10月24日～11月 1日 ( 9日)</td> <td>10人</td> <td>8人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>報告書作成課程</td> <td>11月 7日～11月16日 (10日)</td> <td>20人</td> <td>18人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>遺跡地図情報課程</td> <td>11月27日～11月30日 ( 4日)</td> <td>16人</td> <td>15人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>測量外注課程</td> <td>12月10日～12月14日 ( 5日)</td> <td>10人</td> <td>14人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>遺跡整備活用課程</td> <td>1月15日～ 1月25日 (11日)</td> <td>12人</td> <td>14人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>竪穴建物遺構調査課程</td> <td>2月 4日～ 2月 8日 ( 5日)</td> <td>12人</td> <td>10人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>地質環境調査課程</td> <td>2月21日～ 2月28日 ( 8日)</td> <td>12人</td> <td>16人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計13課程 実施日数132日 受講者数/定員数155人/170人 満足度100%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		実施期日 (日数)	定員	受講者数	満足度	一般研修 遺物観察調査課程	6月 4日～ 6月29日 (26日)	16人	6人	100%	専門研修 文化財写真Ⅰ(基礎)課程	7月 9日～ 7月25日 (17日)	10人	6人	100%	文化財写真Ⅱ(応用)課程	7月25日～ 8月 8日 (15日)	10人	6人	100%	古代・中近世瓦調査課程	9月 6日～ 9月13日 ( 8日)	20人	20人	100%	地方官衙遺跡調査課程	10月 1日～10月 5日 ( 5日)	12人	14人	100%	保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程	10月16日～10月24日 ( 9日)	10人	8人	100%	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	10月24日～11月 1日 ( 9日)	10人	8人	100%	報告書作成課程	11月 7日～11月16日 (10日)	20人	18人	100%	遺跡地図情報課程	11月27日～11月30日 ( 4日)	16人	15人	100%	測量外注課程	12月10日～12月14日 ( 5日)	10人	14人	100%	遺跡整備活用課程	1月15日～ 1月25日 (11日)	12人	14人	100%	竪穴建物遺構調査課程	2月 4日～ 2月 8日 ( 5日)	12人	10人	100%	地質環境調査課程	2月21日～ 2月28日 ( 8日)	12人	16人	100%	計13課程 実施日数132日 受講者数/定員数155人/170人 満足度100%				
	実施期日 (日数)	定員	受講者数	満足度																																																																								
一般研修 遺物観察調査課程	6月 4日～ 6月29日 (26日)	16人	6人	100%																																																																								
専門研修 文化財写真Ⅰ(基礎)課程	7月 9日～ 7月25日 (17日)	10人	6人	100%																																																																								
文化財写真Ⅱ(応用)課程	7月25日～ 8月 8日 (15日)	10人	6人	100%																																																																								
古代・中近世瓦調査課程	9月 6日～ 9月13日 ( 8日)	20人	20人	100%																																																																								
地方官衙遺跡調査課程	10月 1日～10月 5日 ( 5日)	12人	14人	100%																																																																								
保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程	10月16日～10月24日 ( 9日)	10人	8人	100%																																																																								
保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	10月24日～11月 1日 ( 9日)	10人	8人	100%																																																																								
報告書作成課程	11月 7日～11月16日 (10日)	20人	18人	100%																																																																								
遺跡地図情報課程	11月27日～11月30日 ( 4日)	16人	15人	100%																																																																								
測量外注課程	12月10日～12月14日 ( 5日)	10人	14人	100%																																																																								
遺跡整備活用課程	1月15日～ 1月25日 (11日)	12人	14人	100%																																																																								
竪穴建物遺構調査課程	2月 4日～ 2月 8日 ( 5日)	12人	10人	100%																																																																								
地質環境調査課程	2月21日～ 2月28日 ( 8日)	12人	16人	100%																																																																								
計13課程 実施日数132日 受講者数/定員数155人/170人 満足度100%																																																																												
【実績値】	実施課程数 13課程 受講者数 155人 受講者の満足度 100%																																																																											

【備考】	
------	--

(様式2)

## 自己点検評価調書

No. 2606

## 1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		
備考 適時性：研修の需要・必要性、公共性、緊急性への対応 独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性 発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上 効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性						

## 2. 定量的評価

観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
判定	A	B	A			
備考 実施課程数 13 課程 受講者数 170 人 受講者の満足度 80%以上						

## 3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等					
A	本名年度の埋蔵文化財担当者研修は、当初予定した課程を全て実施している。 受講者は、当初予定した受講者数より、一割程度少ない受講者となった。 しかしながら、それら受講者に対し、アンケートをした結果、全ての受講者が、「有意義であった。」「役に立った。」と思っている旨回答を得ている。 これらのことから、総合的に判定し、Aと判定した。					

## 4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等					
順調	当年度は計画どおり13課程の研修を実施し、受講者数は、年度計画の170人に対し155人であった。 研修受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』或いは『役に立った』と『思う』との回答が100%という結果であった。 研修の実施に当たっては、各課程の企画・運営について研修企画委員会を開催し、前回実施した研修結果の分析及び研修終了者のアンケート結果を基に、カリキュラム編成に係る意見交換を行い、研修内容の充実に努めており、今後も同様に対応していきたい。					

(様式1)

No. 2607

## 業務実績書

中期計画の項目 (I 7 (2) 2)	埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお参加者などに対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。 また、東京芸術大学、京都大学、奈良女子大学との間で実践的な連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。
------------------------	--

【事業名称】	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（I 7 (2) ②）
--------	-------------------------------

【事業概要】	近年、全国の博物館や美術館など文化財保存施設の多くにおいて、資料保存を担当する職員が配置されているが、専門教育を受けたものは少なく、また学ぶ機会も多くはないのが現状である。当研修は、資料保存担当者に、自然科学的見地からの文化財保存に関する基礎的かつ幅広い知識や技術の講義および実習を通じて学んでいただき、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし、開催するものである。
--------	---

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長 石崎武志
【スタッフ】	佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英（以上、保存修復科学センター）		

【年度実績概要】	<p>昭和59年度の開始以来24回目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を平成19年7月9日から7月24日の2週間実施した（参加者32名）。前半週では主に保存環境や生物被害対策に関する講義と実習を行い、後半週では、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義を中心とするカリキュラム構成で研修を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は横浜市歴史博物館で実施し、4人ずつ8班がそれぞれ実習テーマを設定し、温湿度や害虫管理などに関して調査を行い、結果を発表、質疑応答を行った。自然科学的な内容を主体とした研修であるため、人文系を専門とする者が多数を占める学芸員にとっては難解な面もあるが、講師の工夫により、体系的かつ実践的に理解していただくよう工夫しており、参加者からは好評を頂いた。</p> <p>また、受講経験者を対象に、最新の保存技術に関する研究成果などに関する情報提供を目的として行う「保存担当学芸員フォローアップ研修」を10月29日に実施した（参加者62名）。今回のフォローアップ研修では、「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を過去に受講した方に勤務先での保存環境改善や総合的虫害管理（IPM）実践例を報告していただき、保存修復科学センターの研究職員が解説を行うという形をとった。その内容は、参加者にも共通した問題意識を内包したものであり、質疑応答では、それぞれの実情を反映した意見交換が活発に行われ、大変意義のあるものであった（満足度100%）</p> <p>「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」は次年度で25回目という節目を迎えることから、これまでの研修内容などの変遷を総括した報告を『保存科学』第47号誌上に掲載した。</p>
【実績値】	<p>実施回数 1回          研修受講者数 32名          受講者の満足度 100%（アンケート回収率 90%）</p>

【備考】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学芸員研修応募要綱</li> <li>2. フォローアップ研修プログラム</li> <li>3. 吉田直人、佐野千絵、石崎武志、三浦定俊 「25年目を迎える保存担当学芸員研修」 『保存科学』第47号、pp.253-261, 08.3</li> </ol>
------	---

(様式2)

## 自己点検評価調書

No. 2607

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	継続性	発展性	正確性		
判 定	A	A	A	A		
備考						

## 2. 定量的評価

観 点	研修参加者数	研修参加者満足度				
判 定	A	A				
備考						

## 3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	結果を総合的に判断し、この判定とした。

## 4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り進捗している。次年度も同様に進めることが望ましいと判断した。

(様式1)

No. 2608

## 業務実績書

中期計画の項目 (I 4 (2))	埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお参加者などに対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。 また東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間で実践的な連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。
----------------------	---

【事業名称】	連携大学院教育 東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）(I 7 (2) ③)
--------	--

【事業概要】	1995（平成7）年4月より東京藝術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の二講座から成っている。各講座3名ずつの研究所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。
--------	---

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	副所長 三浦定俊
【スタッフ】	石崎武志、早川泰弘、木川りか、川野邊渉、中山俊介（以上、保存修復科学センター） 鈴木規夫（所長） 松島朝秀（東京藝術大学非常勤助教）		

【年度実績概要】	次に上げる講義と演習を各教官が担当した。 文化財保存学演習（中山）、保存環境計画論（三浦）、保存環境学特論（石崎、木川）、修復計画論（川野邊）、修復材料学特論（中山、早川） 保存環境計画論では、文化財を劣化させる熱・水分・光・汚染空気・生物などが文化材の材質にどのような影響をあたえるか、劣化を防ぐためにどうすれば良いか、また文化財の公開に関する法規制等の講義を行った。 保存環境学特論では、博物館展示室や収蔵庫などの室内におかれた文化財や、屋外に展示されている文化財の保存方法について、主に温湿度の制御や生物被害対策の最新の研究成果を中心に講義、実習を行った。 修復計画論では、合成樹脂の文化財への応用についてのこれまでの使用例を解説する講義と、合成樹脂を実際に用いて基礎的な実験を行い、その特性について学ぶ実習を行った。 修復材料学特論では、近代文化遺産の保存科学と文化財資料の保存修復作業およびそれに伴う各種分析等についての講義を行った。
【実績値】	

【備考】	
------	--

(様式2)

## 自己点検評価調書

No. 2608

## 1. 定性的評価

観 点	発展性	効率性	継続性			
判 定	A	A	A			
備考						

## 2. 定量的評価

観 点						
判 定						
備考						

## 3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究現場から得られる新しい情報を加えるなど、学生にとって有益で高い水準の内容の授業や演習を行うことができた。

## 4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度当初に予定した授業・演習計画通り、事業は進捗した。 今年度で三浦教官が退職するので、来年度は新たに佐野千絵室長を連携教員として予定している。

(様式1)

No. 2609

## 業務実績書

中期計画の項目 (I 7(2))	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。また、東京東京芸術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する
---------------------	--

【事業名称】	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 (I 7(2)③)
--------	--------------------------------------

【事業概要】	大学院教育の豊富化、社会との連携強化、人材養成を図るため、京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科と協定を結び連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた研究者及び技術者の育成を行っている。
--------	---

【担当部課】	奈良文化財研究所	【事業責任者】	所長 田辺征夫
--------	----------	---------	---------

【スタッフ】	光谷拓実、山中敏史、肥塚隆保、松村恵司（京都大学客員教授） 窪寺茂、松井章（京都大学客員准教授） 小林謙一、渡邊晃宏（奈良女子大学客員教授） 次山淳（奈良女子大学客員准教授）
--------	--

【年度実績概要】	<p>それぞれ次の内容の講義を大学及び奈良文化財研究所において担当した。</p> <p>●京都大学大学院人間・環境学研究科 山中敏史、松村恵司、窪寺茂（文化財調査論1）各種の遺跡・歴史的建造物・庭園などの不動産文化財や、遺跡から出土した各種考古遺物や伝世された古文書などの動産文化財を対象資料として取り上げ、それぞれの文化財資料の特性に応じた分析的調査研究法を追求し、文化財と諸環境との関わりについて考える。</p> <p>山中敏史、松村恵司、窪寺茂（文化財調査論2）各種の遺跡・歴史的建造物・庭園などの不動産文化財や、遺跡から出土した各種考古遺物や伝世された古文書などの動産文化財を対象資料として、考古学・建築史学・庭園史学・地理学・文献史学などの諸分野における研究成果を総合化しながら、文化財の歴史的意義、文化財の保存と活用に関する諸問題について考察する。</p> <p>光谷拓実、肥塚隆保、松井章（環境考古学論1）古代の人々はいかなる環境下で生活し、文化を築いてきたか、年輪年代学や考古学的分析手法を通して古環境の復元的研究を行う。年輪年代法では、古年輪の暦年標準パターンデータを使って、考古学、建築史、美術史などの歴史学の編年研究に資する方法について考察する。さらに埋没樹幹の年輪年代から過去の地震や火山噴火等の発生年代を明らかにし、自然災害史を紐解くと共に当時の人々の対応のあり方を追求し、災害予知に関する研究もおこなう。また、考古学分野では、遺跡から出土する動植物遺存体などを分類・分析する基本的技術を習得させ、動植物利用の実態や人類による自然への働きかけ（適応・改変・破壊）の様相や変化を探る。</p> <p>光谷拓実、肥塚隆保、松井章（環境考古学論2）年輪年代法では、木質古文化財から多量の年輪データを収集し、年代を一年単位で割り出す際に基準となる古年輪の暦年標準パターンを作成する。これを使った歴史学への応用研究を行う。さらに埋没樹幹の年輪年代から過去の地震や火山噴火等の発生年代を明らかにし、災害予知に関する研究もおこなう。また遺跡から出土する動植物遺存体・木材・花粉などについて自然科学的手法も採用しながら分析し、遺跡出土遺存体の意義や、周辺の古環境復元や人類と環境との関わり方の様相や変化を明らかにする。</p> <p>山中敏史、松村恵司、窪寺茂（文化遺産学演習1）文化財には、土地に構築された土地から切り離せない不動産文化財と、持ち歩ける動産文化財とがある。そうした各種文化財について、実際の資料整理や分析などの実習や文献の精読作業などを通じて、調査分析方法を習得させ、文化財の歴史的意義についての理解を深めさせる。</p> <p>光谷拓実、肥塚隆保、松井章（文化遺産学演習2）発掘された遺構や考古資料などの保存修復や活用のための理化学的方法や各種の自然科学的方法を駆使した文化財の分析技術を習得させるとともに、動植物遺存体などを主とした考古資料の調査や古環境復元を通じて、環境と人間との関わりを追究する。</p> <p>●奈良女子大学大学院人間文化研究科 小林謙一（日本考古学の諸問題）日本の国家形成過程において重要な位置を占めると考えられる古墳時代を中心に、日本考古学の現在までの研究成果と課題について論じ、あわせてそれに関連する分野や韓国・中国考古学の成果にも言及する。</p> <p>渡邊晃宏（歴史資料論）文献史料だけでなく多様な資料が歴史資料として注目されるようになってきた今日、従来の枠組みにとらわれない新しい歴史資料論が必要となってきている。中でも考古学による調査成果、特に木簡、漆紙文書、墨書土器などの出土文字資料が歴史資料に占める位置づけは格段に大きくなってきた。このような新しい歴史資料を視野に入れながら、新しい日本史の歴史資料論の構築を目指す。</p> <p>次山淳（歴史考古学特論）平城宮・平城京における考古学的な調査研究成果を主な素材として、考古学の研究方法と、歴史考古学研究の現状および課題について古代を中心に論じる。奈良文化財研究所において実際に出土資料を手にしたり、遺構図を検討しながら、考古資料を歴史資料として活用するための、研究方法の資料への適用を具体的に検討する。また、文献史学、地理学、建築史学、美術史学、民俗学など関連諸分野の成果についても言及する。</p>
----------	---

【実績値】	受入学生数 京都大学 修士・博士課程10名 奈良女子大学 博士課程3名
-------	-------------------------------------

【備考】	
------	--

(様式2)

## 自己点検評価調書

No. 2609

## 1. 定性的評価

観 点	効率性	適時性	発展性			
判 定	A	A	A			
備考 効率性：研究水準の社会的評価 適時性：時代の要請 発展性：若手研究者層の充実、人材確保						

## 2. 定量的評価

観 点	受入学生数					
判 定	A					
備考						

## 3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調に行うことができたので、Aと認めたものである。

## 4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	連携大学と協定を締結し、継続的に実施している。